

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・ 昨年の7月は福井豪雨のため来客数が大幅に減少したが、本年は買上客数が前年同月比107%と回復した。特に夏物バーゲンは好調で、売上は同108%で推移している。
	やや良く なっている	一般小売店〔書 籍〕（店長）	販売量の動き	・ 来客数、客単価、1人当たり買上点数とも今年の最大となり、前年同月を上回っている。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・ 夏のファッションはカジュアル志向のはん用性の高いもの、着回しのできるものが購買動機になっている。夏場に入り、サンダル、水着、帽子、Tシャツなどは前年比で10～30%も伸びており、ファッション全般は若干良い。 ・ 食と暮らしについては、相変わらず上質や産地のこだわりなど付加価値の高い物を求める客が多く、若干上向き傾向である。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・ 客単価は特に伸びず、客の買物に対する慎重な様子にも変化がみられない。しかし、来客数は少しずつ伸びており、“買物意欲”を感じることができる。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・ 7月は上旬の夏物クリアランスが順調に推移し、前年同月比で105%となった。加えて中旬以降は集客イベントの開催もあり、晩夏、初秋物の正価販売商品が好調であった。
		コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・ 今月は気温が低かったため、ソフトドリンクやアイスクリームが前年比80%となったものの、来客数が増加した。
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・ エアコンや冷蔵庫など季節商品の売上は前年比で大幅ダウンしているが、全体としてはテレビやデジタル家電を中心に好調に推移している。
		その他専門店 〔医薬品〕（営 業担当）	販売量の動き	・ 来客数は既存店で前年同月比103%、売上は同104%と徐々に上昇傾向にある。
		観光型旅館（経 営者）	来客数の動き	・ 6月後半から7月にかけて、東海、関西からの団体客を中心に宿泊人員が増えている。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・ 新築住宅の実績を前年並みに維持するのは大変厳しいが、リフォームの販売量は前年比30～40%で推移し、月によっては70%増のこともある。見積価格もはっきり説明すれば通りやすい。また、報道で騒がれているリフォーム事件については、地元の業者に対しては警戒感がなく、影響はない。
変わらない		一般小売店〔鮮 魚〕（従業員）	販売量の動き	・ 取引先への販売量からみると、市周辺での落ち込みはあまりないが、観光地の温泉旅館では愛知万博に客を奪われ、閑散とした日が多い。
		一般小売店〔事 務用品〕（営 業担当）	お客様の様子	・ 当社の販売量や売上は依然良くないが、取引先の中で設備投資やセキュリティー投資などの新しい動きが若干増加している。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・ 激しい競争の中で、最近、当店では価格訴求中心の展開に切り替えたが、ポイント訴求に重点をおく他店との競争により、客は激しく動いている。しかし、パイは同じであり、厳しい状況は変わらない。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・ 単価が引き続き前年比10%程度の伸長をみせており、商品の上質志向が消費者の中で広がりつつある。
		スーパー（副店 長）	単価の動き	・ 客はバーゲンにならないと買わない。しかも、買う際も商品内容や価格を一層吟味したうえで決めるという傾向がますます顕著である。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・ 相変わらず薄型大画面テレビが好調で、地上デジタル放送の開局が一番の押し上げ材料となっている。ただし、単価ダウンも激しく、台数の伸びの割には売上、利益ともに厳しい。パソコンの販売台数は前年比2けたの増加率となっており、単価ダウンは激しいものの多少明るさがみえる。今年のエアコンは昨年の猛暑による大幅な売上増の反動を心配したが、まずまずの売行きである。

	乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・来場促進策のイベントやダイレクトメール、チラシなどを従来以上に投入しているが、期待する成果が出ない。
	乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・県内の業界は5か月連続で前年の販売台数を上回っており、好調な業種に該当する。当社でも4～6月の販売台数は同様に前年を上回っているが、一部RV車に偏っているため、売上、利益の面では1台当たり単価が下振れし、悪戦苦闘している。
	自動車備品販売店 (従業員)	来客数の動き	・折込チラシ等により販促活動を行っているが、客の反応が悪い。また、欲しい商品については、価格よりも品質を重視する客が多い。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・今月の売上は例年とほとんど変わらない。前半は非常に悪かったが、月末に団体客が入ったため、なんとか持ち直した。仕入先の酒屋も当店周辺での客の動きが非常に悪いと話しており、また客の婦人服店でもイベント開催にかかわらず来客数が少ないなど、個人商店では苦戦が続いている。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストランの通常営業は前年並みとなっているが、宿泊部門が低調となったほか、前年の大型宴会に代わる宴会のない一般宴会は大きな減収となっている。
	旅行代理店(従業員)	競争相手の様子	・愛知万博が開催されているにもかかわらず、売上が上がってこない。大手を中心に台湾や韓国からの観光客の受入れは随分多くなっているが、収益が伴わない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・朝夕の通勤時間帯のタクシー利用が減少している。また、夜の街へはマイカーで行き、帰りは代行運転を利用したり、電車、バスや家族による出迎えもみられるため、客は増えない。その上、タクシーの稼働台数が多い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・地元での大きなイベントが少なかったため、タクシーを利用する県外からの観光客が減少した。 ・夜の繁華街は相変わらず入出が少なく、日中の病院通いのタクシー利用客も少なくなっている。
	パチンコ店(店員)	来客数の動き	・売上が前年比約18%減となり、減少率は少し小さくなっている。お盆で帰省している人が増えるため、持ち直しを期待している。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・取引先や客からは、今夏ボーナスが依然として厳しいとの声が多い。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・低所得の若年層の来店はあるが、高所得者層の動きが鈍い。最終的には住宅資金が足りないために受注できないケースが多い。
	住宅販売会社 (総務担当)	お客様の様子	・一戸建てに対する客の動きがあまり感じられず、販売会などでの集客もいまひとつである。住宅取得に対する盛り上がりの仕掛けが必要である。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の再開発工事が着工し、約20店舗が閉店しているため、来客数が減少している。
	スーパー(営業担当)	単価の動き	・周辺の各店では、特に月末を中心に単価を下げて集客をねらう特売が激しくなっている。この結果、数量は増えず、売上が減少するという結果を招いている。
	コンビニ(経営者)	単価の動き	・7月は前年に比べて平均気温が低かったため、アイスクリームやソフトドリンクなどの売上がかなり悪い。また、アルコール飲料やたばこも前年比7～8%減少している。前者は価格の安い第3のビールなどにシフトしたためであるが、たばこは中高年者が健康面から禁煙に踏み切ることに加え、懐の厳しさも影響している。
	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・7月は来客数、売上とも前年同月比10%ダウンした。
	住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・受注減のため各社の坪単価競争が激化している。以前に比べ客の目がシビアになってきており、契約までに時間がかかる。購入層も若くなってきているが、資金力がないため、契約の段階で親に依存しすぎることから未成立となるケースが発生している。
悪くなっている	コンビニ(店長)	来客数の動き	・今月の売上は開店後初めて前年割れとなった。雨による天候不順が原因で来客数も減少した。

		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・他地域のイベント、特に愛知万博の影響が大きく、団体に限らずグループ、個人とも来客数を減らし、前年と比較して2けた以上のマイナスとなっている。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	繊維工業(経営者) 精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き	・企画商品に対する受注状況が良い。 ・例年の受注量は3、4月がピークとなり、7、8月にかけて若干下降するパターンで推移するが、今年度は春から夏にかけて受注量はむしろ伸びてきている。	
	変わらない	食料品製造業 (企画担当)	受注量や販売量の動き	・原油価格の高騰による燃料費、ナフサの高騰に伴う包装資材などの値上げや主原料のすり身の大幅な価格上昇が今後製品価格に転嫁される。各企業では3か月前から社内努力により収益の圧迫に耐え忍んでおり、量的な影響はまだないが、製品価格への転嫁による影響が今後の懸念材料となる。	
			通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・携帯電話の販売数に大きな変動はない。
			金融業(融資担当)	取引先の様子	・工作機械や医薬品等の製造業では、相変わらず順調な受注状況が続き、今後の設備投資にも積極的な企業が増えている。
			不動産業(経営者) 司法書士	受注量や販売量の動き 取引先の様子	・同業者の情報を聞いても、不動産の動きが悪く、利益がなかなか出ないという状況である。 ・債務整理の相談が減少している。一方で住宅ローン等の設定の依頼も減っている。
	やや悪くなっている				
悪くなっている	建設業(経営者)	競争相手の様子	・建設業の業種を問わず、公共工事において低入札価格調査対象工事が増え続けている。資金繰りが悪化したため、前払金欲しさのダンピングと思われる。		
雇用 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社(編集者)	周辺企業の様子	・飲食、サービス業の新規出店の動きが目立ってきた。また、一部製造業で業務拡大により求人が増加し、これに伴い運送業の業務拡大や求人の動きがみられる。全業種で景気が少し良くなってきている。	
		新聞社[求人広告](担当者)	求職者数の動き	・昨年7月は前年比140%と飛躍的に伸びたが、今年はさらに前年比116%と売上が増加している	
		職業安定所(職員)	採用者数の動き	・必ずしも正社員だけではないが、求人と求職者のマッチング率が向上している。	
	変わらない	人材派遣会社(社員)	雇用形態の様子	・取引先企業では正社員採用よりも、派遣、契約、パートの一時的な雇用を検討するケースが多く見受けられる。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比7.6%増加したものの、製造業のうち一般機械製造は同17.4%、電気機械製造は同53.3%減少している。しかし、明るい兆しとして建設業が前年比で39.2%増加している。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・製造関係の求人は全体的に減少しているものの、雇用調整が容易な派遣、請負の求人が増加している。また、運輸業の求人が伸びない。	
やや悪くなっている	-	-	-		
悪くなっている	-	-	-		